

平成28年度 第1回 亀岡市総合農政計画審議会

「第2次亀岡市元気農業プラン」の見直しについて

《取組状況（検証）》

亀 岡 市

## 『第2次亀岡市元気農業プラン』の見直しについて

### 1 策定の目的

全国的に農業・農村を取り巻く情勢は農業所得の減少、農業従事者の高齢化など危機的な状況にあり、安全・安心な農産物の安定供給のためにも、農業の産業としての持続性を回復し農村の再生を図ることが急務な状況です。

亀岡市の農業施策を総合的、計画的に進めていくためには、農政を取り巻く情勢の変化や本市の特性を見極め、将来にわたる持続的な発展を目指した農業施策を推進していく必要があります。「第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～」を上位計画として、中長期的な農業施策の展開方向を示す計画として、農業の生産・消費両面からの5つの基本理念のもと「第2次亀岡市元気農業プラン」を策定しました。

### 2 見直しの主旨

本プランは本市が取り組む農業施策の指針となる計画であり、平成18年に「亀岡市元気農業プラン」を策定、5年目を迎えた平成24年には計画内容を見直し「第2次プラン」を策定しました。今年、計画策定から5年目を迎えるに当たり、平成28年度中の見直しを目指します。

自然条件や立地条件に恵まれた本市の優位性を最大限に活かし、ふるさと亀岡の魅力を磨き上げ「選ばれるまち」・「住み続けたいまち」・新たな亀岡市の実現を目指して、これまでの進捗状況や効果を検証し、総合的な見直しが必要です。

### 3 見直しに向けての日程

平成28年11月30日	第1回 亀岡市総合農政計画審議会 (諮問・素案審議)
平成29年 1月中旬	第2回 亀岡市総合農政計画審議会 (答申案審議)
下旬	答申
2月中旬	パブリックコメント
3月下旬	プラン策定

## 4 「第2次亀岡市元気農業プラン」の取組状況（検証）

---

### ■ 5つの基本理念

1. 農業の経営安定
2. 担い手育成
3. 環境の保全と農業・農村の多面的機能維持
4. 都市農村交流と地域活性化
5. 地産地消と食農学習の推進

### 1. 農業の経営安定 .....

#### ■ 振興目標

- 地域特性を最大限活かした多様な水田利用を推進します
- 需要に応じた農産物の生産計画の策定と効率的な生産体制確立を図ります
- 安全で高品質な農畜産物の安定供給と生産基盤の強化による経営安定を図ります
- 農業における亀岡の魅力を発信し、売れるものづくりを推進します

#### ■ 取り組み状況

##### ①【需要に応じた農産物の計画的な生産】

米価安定に向けて、生産数量目標の達成に取り組んだ。平成30年産米からは米政策の抜本の見直しが行われるため、主食用米に限らず、より一層需要に応じた生産に取り組む必要がある。

##### ②【販売戦略の確立】

安全・安心な農産物の生産振興を目指し、畜産堆肥等の施用に対する助成を行った。市内で生産された有機肥料（畜産堆肥）による安全・安心な農産物の栽培に貢献しているが、施用量は減少傾向である。

また、亀岡市食肉センターの衛生対策事業を実施し衛生面のさらなる強化を図ることで、安全・安心な亀岡牛としての付加価値を高め、ブランド推進を図った。今後、首都圏も含めた多くの地域の方に亀岡牛を知ってもらうことが重要であり、亀岡牛ブランドの更なる普及のための振興策を実施していく必要がある。

### ③【継続性のある生産体制の確立】

機械施設の共同利用、共同作業により農業生産コストの低減を図るため、生産振興に必要な農業機械の導入を支援した。地域の実情に応じた農業経営体の育成に取り組む必要がある。

### ④【農業生産基盤の整備】

現在、市内の未整備田を解消するために、亀岡中部農地整備事業（市内6工区）によりほ場整備が予定されている。また、農業委員会が実施する農地パトロールにより耕作放棄地面積は減少傾向にある。

平成25年からシカ捕獲強化学業を実施しており、シカ捕獲頭数は亀岡猟友会員の努力により増加傾向となっている。しかし、狩猟者（猟友会）が高齢化しており今後の課題となっている。

## 2. 担い手育成 .....

### ■振興目標

- 地域の実情に応じた担い手の確保・育成を推進します
- 認定農業者及び集落営農組織の経営強化を推進します
- 京力農場プランの策定を支援し、集落営農の強化を推進します
- 農地中間管理事業を活用した農地の利用集積を推進します
- 加工による亀岡産農作物の新たな活用方法を検討し、農業経営の強化を図ります

### ■取り組み状況

#### ①【意欲のある担い手の確保・育成】

農業の持続的な発展につなげていくためには、地域の実情に応じた担い手づくりを進めるため、新規就農者が定着し、地域の中心的な担い手となれるようほ場での聞き取り調査や指導を行い、研修会や交流会を開催している。

#### ②【認定農業者及び集落営農組織等の経営強化支援】

認定農業者は目標値に達し、法人も増加している。経営強化のため、フォローアップに努め、経営内容の改善に向けての支援を行っている。

また特に、個別営農が困難な地域においては、集落内での農作業受託組合や営農組織の法人化等を支援する必要がある。

### ③【農地集約化の推進】

農地の担い手への集積により、農業生産性の向上を図るため、京力農場プランや農地中間管理事業の周知に努めた。

関係機関との連携による土地利用型作物の栽培研修会等を開催し、栽培技術向上・生産の安定化に取り組んだ。今後も、さらなる取り組みによる省力化や品質向上が必要である。

### ④【農業経営の多角化への支援】

平成24年度、農畜産物の加工・流通など、6次産業化を学ぶ機会と参加者同士の交流の場を提供するため、人材育成研修プログラム「亀岡みのりの夢工房」を開始し、起業のきっかけづくりを支援している。関係機関等と連携し発展させることが重要である。

## 3. 環境の保全と農業・農村の多面的機能維持 .....

### ■振興目標

- 農業生産活動に伴う環境負荷の低減（農薬、化学肥料の使用低減）を図ります
- 環境保全型農業の推進と農業生産力の安定化の両立を図ります
- 農業・農村が有する多面的機能の維持・向上を推進します

### ■取り組み状況

#### ①【人と環境にやさしい循環型農業の推進】

自然循環型農業を支援するため堆肥の購入経費の一部を補助した。エコファーマー認定の新規取得者、更新者は減少傾向が続いている。京都府と連携し、新規取得者の増加を目指す。

#### ②【農地を耕作し管理できる仕組みづくりの構築】

担い手育成、作業受託組織、法人化等に向けた取り組みを支援した。平成30年産から生産数量目標の配分が廃止されるなど大きな変更があり、その内容を踏まえた取り組みが必要である。

### ③【地域ぐるみの保全活動や維持管理体制の推進】

非農家とも協力して農地・環境を守る制度を活用することで地域全体の取り組みに効果があった。多面的機能支払交付金を活用して、社会共通資本としての農地・水の質的向上と共同活動を通じた地域コミュニティの活性化を図った。中山間地域では補助金を活用して、耕作不利地である山間部の農地が保全されている。「この補助金がないとすでに荒廃農地になっている」という声が多数あるが、協定参加者の高齢化により、対象農用地も減少傾向にある。

## 4. 都市農村交流と地域活性化 .....

### ■振興目標

- 都市農村交流を推進します（学びや癒し等の機能の活用）
- 地域資源を活用した農業・農村の振興を図ります

### ■取り組み状況

#### ①【食と農を通じたにぎわいづくり】

農業塾及び市民農園を通して農業学習機会の場を提供することで、地産地消について考える機会となっており、参加者からも好評をいただいている。農業塾では栽培品がここ数年固定化しつつあり、運営方法等も含めて検討が必要である。

#### ②【食材の提供機会の充実】

市内で生産される新鮮で安全な農産物を消費者に直接供給する直売所を支援するため補助を行っている。それにより農業経営の向上と地域農業の活性化に貢献している。市内直売所の販売額も年々増加傾向にあり地産地消の推進と亀岡農業の情報発信の場となっている。直売所支援の補助金については、半額補助のため、交付申請をする団体が固定化している。

#### ③【商工業や観光との連携】

クルベジ農法に係る営農研究によって、効率の良い栽培方法の調査が進んでいる。また、広報資料の作成により知名度も高まりつつある。

各イベント等への直売所出店など、農業以外の観光等との連携により、亀岡産農産物の情報発信とイメージ向上に効果がある。

## 5. 地産地消と食農学習の推進 .....

### ■振興目標

- 食と農の理解促進活動を推進します
- 地産地消を通じた消費拡大と生産者と消費者のふれあいの創出を図ります
- 食農学習と健康づくりを推進します

### ■取り組み状況

#### ①【食と農の理解促進】

給食だよりの発行により、親子で亀岡の農業や農産物について考える機会を提供しており、亀岡の特産物に関する普及、PRにつながっている。「おやこ料理塾」では、収穫から調理、食事を親子で体験することで、農から食へのつながりを考え、食べることの楽しさと食の大切さを学ぶ機会となっている。

「アグリフェスタ」は毎年参加者、出展者ともに増えており、亀岡の食と農を発信する重要な機会となっている。

#### ②【食農学習の促進】

小学校給食や保育所給食への地元産食材の利用については、関係部署と連携し安全・安心な地元産農産物を供給することで、地産地消の推進と食への関心の高まりに貢献している。小・中学校での食農学習では農業体験を通じて、農業や農村の暮らし、食への感謝の気持ちを学ぶ機会となっている。

#### ③【地域の「食」と「食文化」の普及・継承】

年5回実施の「おばちゃんの亀岡ふるさと料理塾」を通じて、伝統行事とそれにまつわる食を文化として守り、伝承に努め「ふるさと亀岡」の良さを守っている。講師を務める亀岡市行事食研究会のメンバーが高齢化しており、新規メンバーの加入が課題となっている。また、平成27年度に発行した冊子「亀岡の行事と行事食」を市内書店にて販売を始めた。